

## デジタル時代の働き方改革～with コロナの会社のあり方～

講師 KDDI 株式会社 ソリューション事業本部 サービス企画開発本部長  
藤井彰人氏

令和2年11月11日（水）に開催しました、令和2年度県央地域商工団体連絡会議において、「デジタル時代の働き方改革～with コロナの会社のあり方～」KDDI 株式会社 藤井彰人氏による講演を開催しました。その概要について紹介します。

### 県央地域商工団体連絡会議とは

管内の商工団体代表と地域課題を共有するとともに、喫緊の課題等について情報交換・意見交換を行うことにより、県央地域における経済団体と県との良好な連携関係を構築することを目的とした会議。

### 講師紹介

藤井 彰人氏

大学卒業後、富士通、Sun Microsystems、Google を経て 2013 年 KDDI 入社。

クラウドサービス企画開発部長を経て現在は法人向け事業企画、商品企画を所管する。

2009 年より情報処理推進機構(IPA)の未踏 IT 人材発掘・育成事業のプロジェクトマネージャーも務め、若者の新たなチャレンジを支援している。



### ≪講演の概要≫

#### 【初めに】

新型コロナウイルスの影響で、ビジネス環境は急変しました。どこでも働ける環境をテレワークで提供しましょうといった生易しいものではなく、どこでも働かなければいけない状況へ強制的に移行させられたと思います。ここまで急激にデジタル化の波がコロナの影響で来るとは思わなかったというのが現実だと思います。

#### 【K字回復について…資料1】

前回のリーマンショックとは異なり、コロナ禍では全体的に落ちるのですが、その中から回復している企業が出てきています。これが、K字回復といった現象ですが、コロナに耐性があるビジネスを確立できているのがK字の分かれ目になってきています。

資料1



## 【4点の新しい常態…資料2】

企業における新しい常態というのはどういったものかというのは各所で議論されていますが、大きく企業が目線から考えて、4点だといわれています。

### (1 顧客接点)

顧客接点というのが、現実到店頭、営業の訪問が非接触型に変わっていくというのが生まれていますので、接点を営業活動、アフターサポートを含めてどのように見直していくのかを考えなければいけません。

### (2 事業再編)

デジタルは単なるツールでしかないので、周辺の業種のところへ侵食していくという活動をしていく、ですので事業再編ということが必要となってきます。

### (3 サプライチェーン)

都市だけで事業活動を行っている、密になって、コロナが増えていく。そこでの経済活動が停まってしまうため、柔軟性のある分散した形が必要となってくる。サプライチェーンも効率だけを求めてやっていると、強靱な企業活動というものができなくなる。地震や台風が起きる度にBCP（事業継続計画）がとって分散化するが、それをグローバルレベルで考えていかなければいけません。

### (4 働き方改革)

コロナの影響で働き方がどのように変わったかという大きな企業格差が観測されています。もちろん業種業態によっては、デジタルでは仕事が完結しません。

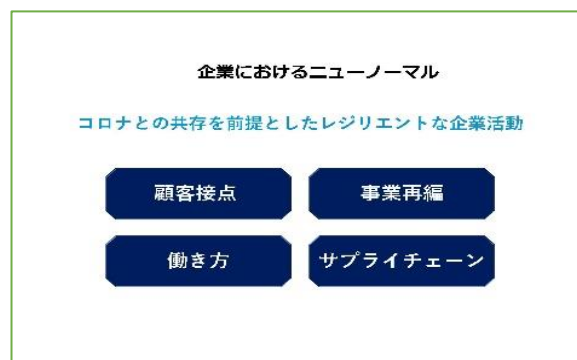
IT系の大企業ほどリモートワークが徹底してすすんでいて、中堅から中小、地方になればなるほどデジタル化の遅れが数値として見えてきています。

これは、大きな問題で、デジタルの導入は中小企業の方がやりやすい。昔と違い、大企業でしか作れないようなシステムで、大企業でしか使えないような値段のものでITが運用されている時代は完全に終わっています。

色々なクラウド、ネットワーク上のサービスを従業員一人から使えるサービスが爆発的に増えている時代です。システムも1アカウントいくらといったサービスになっています。

そのため、過去のしがらみや巨大投資がない中堅、中小企業の方が導入しやすい環境にあります。デジタル格差を解消するために、積極的に最新の技術を、中小企業が取り組むことが重要であると思います。

資料2



### 【ネットワークの重要性…資料3】

今回のコロナで重要と認識されたのはネットワークの重要性です。

自分たちの会社の中で、PCを配置し、ソフトは何を入れるのかを考える時間があるのであれば、ネットワークを太くして、クラウドのサービスを使うことを考えたほうが修正しやすいですし、こういったことを考えていくべきです。極端な話、LTEが載っているタブレットが1つあればほとんどのことができる。

コロナと共存していくということは、コロナ対策で、消毒や検温、ソーシャルディスタンスとかやっていますが、これと同じことが、リモートワークの先には出てくるだろうといわれています。

バラバラの所でみんなが働いて、デバイスも持ち出して働くことを強制される時代になると、ここからこっちは信用し、向こうは信用しないという今までのセキュリティ対策が通用しなくなります。アクセスがあった都度、このアクセスが信用してよいアクセスなのかというのを、検知し、攻撃を受ければシャットアウトする仕組みが必要です。

資料3



### 【ハイブリッドな職場環境…資料4】

今後はどこで働くではなく、ハイブリッドな状態を許容するようなオフィスの場というのが必要かなと思っています。

海外企業に勤務している時に、会うことの大切さをこんこんと説明されました。そこでは無料でランチを提供したり、朝食・夕食も提供したりします。なぜかという異なる部署の人たちが、集まる場を作っています。

そこでの会話から、新しいアイデアが生まれてきたり、ワイガヤの中から、新しい連携が生まれたりするというのを大切にしています。ですからイノベーションを起こす意味でもオフィスの良さとネットで個人が集中できる良さというものをハイブリットしていく必要がある。

資料4



## 【5G時代について…資料5、6】

今後新しい産業というのは新しいつながりから出てくることが多い。例えば鉄道ですが、蒸気機関から生まれたビジネスというよりも、鉄道が拠点をレールでつなぎネットワーク化されたことで工業地帯とか旅行業が生まれ、不動産業が発達したといわれています。

インターネットも同様です。インターネットをつなぐルーターやIT機器のマーケティングよりもインターネットを通じて行われる証券取引やECの取引の方が産業としてよほど大きくなっている。

この後何が起きるのかというと、5Gの時代で、人をつなぎ、場所をネットワークでつなぐことからあらゆるコトや物をつないでいくということが今後5Gの時代で入っていきます。ちょっと前だとオフィスでケーブルをつなぐから、一人一人をスマートデバイスでつなぐということに変わってきた。次は物すべてをネットにつなげていく。それで総合力を発揮していくという形になる。

5Gはフェーズが色々あります。今後10年くらいをかけて5Gのベースのところに行くと思いますが、大容量、多接続、高信頼、低遅延のネットワークというものが10年後にはすべてできるようになっている。最初はエリアが小さいかもしれないが、来年人口カバー率90%になって様々なものが大容量化され、低遅延になっていきますので、こういったところにも注目いただきたい。

資料5

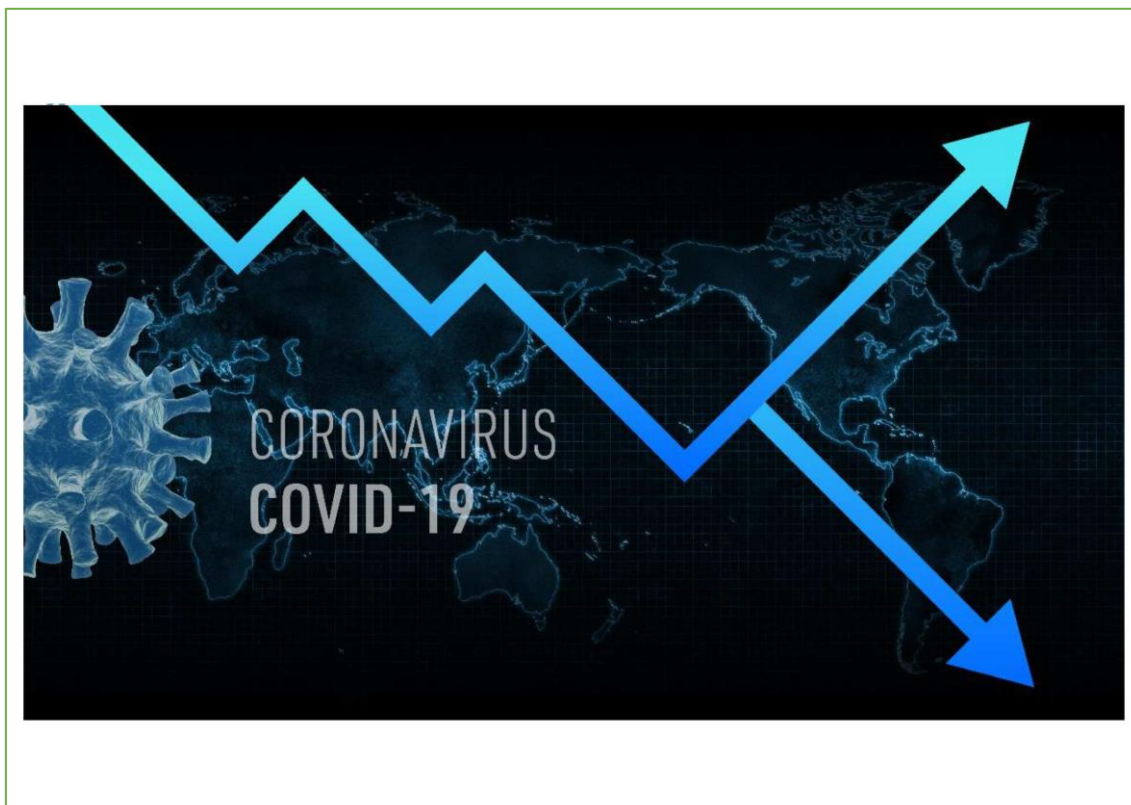


資料6



※ 本概要については、神奈川県県央地域県政総合センターで書き起こしをしたもので文責は神奈川県県央地域県政総合センターにあります。

資料 1 (拡大版再掲)



資料 2 (拡大版再掲)

## 企業におけるニューノーマル

コロナとの共存を前提としたレジリエントな企業活動

顧客接点

事業再編

働き方

サプライチェーン

資料 3 (拡大版再掲)



資料 4 (拡大版再掲)

### ハイブリッドなミーティング環境をつなぐ

オフィスとリモートをテクノロジーで融合させ、安全性と事業継続を

The diagram illustrates a hybrid meeting environment with several key elements:

- 会議室は専用デバイス** (Meeting room is dedicated device)
- オフィス内ではPC** (In the office, use PC)
- 在宅ではスマホ、PC** (At home, use smartphone, PC)

Logos for **zoom**, **Microsoft Teams**, **Cisco webex**, and **Google Meet** are displayed.

**事業継続性と生産性が高い、ハイブリッドな働き方**

資料 5 (拡大版再掲)

## 5G時代のビジネスモデル

あらゆるモノがつながり続け  
AIエージェントが生活を彩る5G時代

センシングデバイス / IoT





ビッグデータ / AI



資料 6 (拡大版再掲)

## 「大容量・高速通信」で見えてくる未来

広帯域幅によって「大容量・高速通信」を実現

① 動画の高画質化/高速ダウンロード化

瞬時に大量の動画をダウンロードが可能



② 新しい映像体験

複数のカメラからの映像を瞬時に処理し同時にあらゆる角度から映像視聴が可能



③ AR/VRの日常化による拡張現実

画像や地理情報をもとにそのエリアに合わせた情報をAR上に表示



6